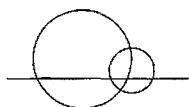


## 東亜同文書院大学記念センター・弘前講演会



### テーマ：津軽が生んだ山田良政・純三郎兄弟をめぐる

#### －津軽、東亜同文書院、孫文－

**【司会】** お待たせいたしました。ただいまより愛知大学東亜同文書院大学記念センターオープンリサーチセンター主催により「弘前資料展示会・講演会」を開催いたします。テーマは「津軽が生んだ山田良政・純三郎兄弟をめぐる－津軽、東亜同文書院、孫文－」です。開催に当たりまして学長代行の佐藤元彦先生よりご挨拶をお願いいたします。先生は弘前生まれで高校卒業まで弘前にお住まいだったと聞いております。では佐藤先生お願いいたします。

**【佐藤】** 皆さんこんにちは。本日は愛知大学東亜同文書院大学記念センターが弘前の地で、弘前とゆかりのある山田兄弟ならびに東亜同文書院に関しての展示会および講演会を開催いたしましたところ、このように大勢お集まりいただきまして本当にありがとうございます。まず冒頭にお礼を申し上げます。

さて山田兄弟、東亜同文書院、東亜同文書院大学あるいは孫文につきましては、後ほどの専門的な立場からのご講演に譲りまして、私のほうからせつかくです。この機会に、愛知大学のことにつきまして少し宣伝を兼ねてお話をさせていただければと思います。愛知県にあるから愛知大学だろうというふうに思われる方が多いかと思いますが、愛知大学という名前は実は「知を愛する」というところから来ております。地名の愛知と言うよりはむしろ知を愛するということから来ています。今から62年前、1946年の11月に豊橋の地に創設されました。す

でのご案内のことかと思いますが、前身の一つは1901年に上海に設立された東亜同文書院、あるいは後の東亜同文書院大学でございます。戦争が終わってその教員や学生、さらには東亜同文書院以外の、朝鮮半島あるいは台湾からの学生や教員が日本に帰ってきまして、協力して豊橋の地に愛知大学として新しい大学を創設したのでございます。

その関係もありまして、中国との関係、これは切っても切れないものがございます。その点は現在の愛知大学における研究あるいは教育という点でも引き継がれておりまして、たとえば中国語を勉強なさったことがある皆さんは必ず『中日大辞典』というのをお使いになるのではないかと思いますけれども、これは日本における初の本格的な中国語の辞典として、実は愛知大学が編纂した辞典でございます。それから中国についての学部が、言ってみれば日本の中で唯一学部として愛知大学にございまして、中国での語学研修あるいは中国での調査発表会、さらには中国でのインターンシップというようなことも含めまして、文部省からこれはグッド・プラクティス、非常に良い教育であるというふうなお墨付きを得て展開されているところでございます。

さらには研究という点でいきますと、文部科学省の21世紀COEとしても採択をされました国際中国語研究センターというのがやはり本学にございまして、言ってみれば伝統をベースにしながらの中国の研究、さらには教育という点で、おそらく日本の中で随一という実績を誇っていると自負

しているところでございます。

本日は、その愛知大学の前身である東亜同文書院と切っても切れない山田兄弟の足跡を偲ぶこの企画を、山田兄弟生誕のゆかりの地である弘前で開催させていただきます。実は東亜同文書院についての研究をするということで本日の主催の機関でございます東亜同文書院大学記念センター、これは確か15年ほど前に本学に設立されましたけれども、2006年にやはり文部科学省のほうからオープンリサーチセンターの整備事業として認定され、補助金をいただいて、この間全国でこのような形で展示会、あるいは講演会を開催していることを続けている次第でございます。このところ横浜であるとか東京であるとか、関東が主でありましたけれども、今回初めて弘前での開催があります。またこのあと九州でも開催が予定されていると聞いております。弘前生まれの私としましてはぜひこの機会に津軽、あるいは弘前の方々に山田兄弟のことをもっとよく知っていただくということと併せて、そのことを通して愛知大学に関心を持っていただきたいなというふうに思っている次第でございます。中国についての研究や教育という点で言いますと、全国から優秀な学生さ

んを集めたいと考えるところでございまして、今日はあとで現代中国学部学部長の馬場先生も講演なさいますけれども、現代中国研究あるいは現代中国教育という点で、弘前から今後注目をいただきたいながらさらに発展していきたいと思っているところでございます。ぜひ皆様のご関心あるいはご協力をこの機会にお願いして、私の挨拶にさせていただきます。

なお津軽弁のイントネーションでしゃべろうかどうかだいぶ迷ったんですけれども、先ほどの司会の方が標準語と言うか普通のイントネーションでお話しになりましたので、何かつられてしまいました。あとでもし時間があれば当然津軽のイントネーションでしゃべりたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。改めましてこの機会にぜひ山田兄弟にご関心を持っていただくと同時に、そのことを通して津軽と愛知大学の関係が深まっていくことを願って、私の挨拶にさせていただきます。本日は講演、そして明日は展示会がございますけれども、どうかお付き合いをいただければと考えております。どうもありがとうございました。